

実証ほ場をきっかけとした取組事例(志のある地元生産者が集まり、大切に育てたオリーブは輝く宝) [香川県多度津町]

1. 地域農業の状況

○ 多度津町は香川県の北東部に位置し、讃岐平野の一部を占め、南は善通寺市、北は瀬戸内海に面している。また、瀬戸内海特有の年間通じた温暖な気候に恵まれている。



○ 主要作物としては、米麦を中心にミニトマトやブロッコリーといった野菜類の栽培も行われている。また、町西部の見立地区と奥白方地区を中心に、古くからブドウの栽培が盛んに行われており、現在でもデラウェアを主体とする県内有数のブドウ産地となっている。

○ しかし、農業者の高齢化及び後継者不足、野生鳥獣による被害の拡大、そしてデラウェアの価格下落などにより、農業従事者及び生産額が減少している。

○ その結果、近年、耕作放棄地が増加傾向にあり、多度津町の耕地面積551ha(平成27年耕地面積調査)に対して、耕作放棄地面積は105ha(平成27年農林業センサス)となっている。

再生後、一面に広がるオリーブ畑

「オリーブオイルと新漬け」(蒼のダイヤブランド)



2. 荒廃農地再生利用の取組

取組主体 (農)たどつオリーブ生産組合

地区名 見立・東白方・奥白方地区

再生面積 7.7ha(経営面積8.8ha)

取組年次 平成21年～27年

作付作物 オリーブ

販路 県内店舗、首都圏

(1)「荒廃農地を再生したきっかけ」地場産オリーブの普及へ

○ 町や町農業委員会、県農業改良普及センター、農協等で構成する町担い手育成総合支援協議会(以下「協議会」という。)において、増加する荒廃農地への対応について協議を行ってきたところ、県からオリーブ栽培に取り組んではどうかとの話があった(オリーブは県花・県木)。

○ 町内農業者にとって馴染みのない品目であることから、県が中心となり、勉強会や視察研修を実施し、利用方法や果実特性、栽培方法に関する知識や理解を深めた。その結果、27名の参加による「多度津オリーブ部会」が設立され、オリーブ栽培に取り組むこととなった。

○ 協議会が平成21年度に耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用して、オリーブ栽培の実証ほ場(40a)を設置したことで、「多度津オリーブ部会」はオリーブの栽培適性を実証するとともに、栽培ノウハウを習得でき、オリーブ栽培への関心と荒廃農地の再生利用に対する機運がさらに高まった。

(2)オリーブの共同加工やイベントを利用した普及活動により、消費者や飲食店、企業など異業種とのつながりが構築

○ 平成26年9月には、更なる荒廃農地の解消を目指し、「多度津オリーブ部会」の有志が中心となって、農事組合法人「たどつオリーブ生産組合」を設立するとともに、地場産オリーブを「蒼(あお)のダイヤ」というブランドで商品化(国際オリーブオイルコンテストで金賞を受賞)し、県内や首都圏へ販売網を拡大している。(平成27年11月には更なる品質の向上、生産量の拡大を求め地元企業と連携し、(株)蒼のダイヤを設立)

○ このような取組が高く評価され、「第2回ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(平成27年9月)において、農山漁村活性化の優良事例として選定されている。



活用した支援策

H21～27 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(再生作業・営農定着・経営展開)他